



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第37号

目次

- 平成18年度科学研究費補助金採択状況
- チェンマイ大学学長が来訪
- 附属小学校にてスクイーク・ワークショップが開催
- 「評価者研修」と「人事評価説明会」を開催
- B I O 2 0 0 6 に三重大学が出席
- 「三重県メカトロ・ロボット研究会」発足、「設立記念講演会」開催
- 人文学部と南伊勢時間で相互連携協力協定に調印
- 「第1回大学教育カフェ」開催
- 平成18年度生物資源学部渡邊文二奨学生が決定
- 「テネイシン-C」測定試薬キットの開発
- 「ニュークリンジエルスプレー」開発

平成18年度科学研究費補助金採択状況

平成18年度の科学研究費補助金の採択（右表）が決定しました。科研費の獲得状況は年々厳しさを増していましたが、本年度は件数、金額ともに前年度に較べて約11%UPとなりました。しかし、法人化前の実績に較べると未だ低い水準にとどまっています。更なる向上を目指して、「三重大学科研費の手引き」を準備するとともに、本年も7月と9月に科研費説明会を開催する予定です。科研費をはじめとする競争的資金獲得のため、研究環境の改善や各種応募へのサポートを戦略的に進めていきたいと思っております。（詳しくは、<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/kaken/index.html>）

研究種目	件数	金額
特定領域研究	10	75,500
基盤研究A	2	29,500
基盤研究B	40	208,700
基盤研究C	98	131,500
萌芽研究	25	33,300
若手研究(A)	2	5,700
若手研究(B)	59	81,600
特別研究員奨励費	9	9,500
計	245	575,300

チェンマイ大学学長が来訪



5月17日～18日の2日間、チェンマイ大学ポンサック学長が本学を訪問されました。チェンマイ大学から（独）国際協力機構（JICA）の外国人受託研修員として研修中のピタヤ、ソムバット両先生および外国人研究者のアンバン先生も加わり、現在生物資源学部と進められている「タイ・北部省農薬適正技術計画」プロジェクトや今秋本学で開催予定の3大学ジョイントセミナー等について懇談されました。また、午後から附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場と津市高野尾町にある（株）赤塚植物園を訪問し、ハイテク技術に強い関心を寄せられていました。19日には、JICAプロジェクト共同校の香川大学を訪問され21日帰国の途につかれました。

附属小学校にてスクイーク・ワークショップが開催



5月20日、附属小学校を会場に、子どもの思考力・表現力を伸ばすソフトウェア「スクイーク」を使ったワークショップが開催されました。これは、昨年4月に導入されたスクイークのさらなる創造的な活用を目指して、三重大学国際環境情報教育プロジェクト（代表：亀岡孝治副学長）が企画し、コンピュータメーカー等の協力のもと、専門の講師を招いて実施されました。附属小学校および八郷西小学校の児童20名が、マイク音を用いて、自分が描いた画面上の絵を動かすという課題に取り組みました。児童のほか、保護者、サポーター、見学者を含めると約70名と盛況の中、児童が作る個性的で発想豊かな作品に感心し、みんな楽しい時間を過ごしました。

「評価者研修」と「人事評価説明会」を開催

本年度、事務職員を対象とした「新しい人事評価制度」を試行の導入に際し、5月9日・12日に評価者であるチームリーダー（課長）以上の職員に対して、外部講師による研修会を開催しました。研修会は「目標設定方法」「目標設定面談の考え方、進め方」についての基本的な講義のほか、ロールプレイング法による実習を含めた内容で行われ、受講者からは、面談方法について大変参考になったとの感想が寄せられました。また、同制度について、5月16日・19日には、被評価者である全事務職員を対象とした人事説明会を開催しました。



BI O 2 0 0 6 に三重大学が出展



BI O 2 0 0 6 は、4月10日～12日にアメリカ・シカゴのマコーミックセンターで開催された世界最大級の展示会です。創造開発研究センターと知財統括室が、三重県と共にこの展示会の日本パビリオンに出展し、三重大学発のバイオ関連特許やベンチャー企業を世界にPRしてきました。世界的大企業やアメリカの大学などと、産官学連携、特許や技術移転などの意見交換を行いました。また、展示パビリオンには、イリノイ州副知事が突然訪れるなどのサプライズもありました。

「三重県メカトロ・ロボット研究会」発足、「設立記念講演会」開催



4月27日、県新産業創造戦略の新機軸として、中勢以南への知的研究集積および産業集積をめざす産官学共同「三重県メカトロ・ロボット研究会」（世話人：平井淳之教授・工学研究科）が「新制津市誕生」を契機として発足しました。同研究会は、工学研究科のメカトロ・ロボット関連研究室が旗振り役となって、産官学連携の下、国家プロジェクトなどを目指して積極的に展開していきます。また、発足記念セミナーと並行し、工学研究科において「ロボット工学第一人者」森政弘先生、「メカトロニクス之父」森徹郎先生をはじめとする研究会顧問団の方々による関連技術・教育・政策論など広範囲に亘る対談会が開催され、斯界権威からの講話に参加した多くの教職員・学生は魅了され、またと無い有意義な機会を得ることができました。

人文学部と南伊勢町間で相互連携協力協定に調印

人文学部は5月12日、南伊勢町と相互連携協力協定に調印しました。両者が共同して、教育・文化・研究を推進し、地域のさまざまな課題に取り組むことによって、大学と南伊勢町の充実・発展を目指します。今後、まちづくりの推進、地域産業振興、生涯学習の充実、地域文化振興、人材育成の推進等で協力していく予定です。

写真左から 井口靖人文学部長、南伊勢町 稲葉輝喜町長



「第1回大学教育カフェ」開催

5月17日、高等教育創造開発センター主催の標記ランチョンセミナーが開催されました。この催しは、「他の先生はどんな授業をしているのか」など、教員同士が自らの授業経験について気軽に話し合い、大学教育の実践的なノウハウの共有を行う教員研修会の一つです。今回のセミナーは、「ポートフォリオ評価の実践について」（語り手：津田司教授・大学院医学系研究科）を主題に、22名の参加がありました。大学教育カフェは、教員だけでなく、職員・学生・市民の方も参加でき、毎月1回の開催を予定しています。（来月以降の開催予定は<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/>をご覧ください。）



平成18年度生物資源学部渡邊文二奨学金が決定



5月29日、三翠会館において平成18年度生物資源学部渡邊文二奨学金の採用者に対する採用決定通知書の交付式が行われました。当日は、当奨学金制度創設のための資金をご寄付頂いた渡邊氏ご本人から、学部学生2名及び大学院生1名に対して採用決定通知書が交付されました。また、採用決定通知書の交付後、選考委員長の豊田学長から3人の学生に対しお祝いとともに激励の言葉が述べられました。本奨学金制度は、平成16年度に創設され、今回で2回目の交付となります。

「テネイン-C」測定試薬キットの開発

組織を構成する細胞の間を埋めている細胞外基質のうち、病気の組織で特異的に作られるテネイン-Cの血中濃度を測定する試薬キットは、三重大学が所有する特許をもとに、平成13年度より2年間、科学技術振興機構の助成を受けて、大学院医学系研究科修復再生病理学分野の吉田利通教授と（株）免疫生物研究所（群馬県高崎市）により共同開発されたものです。以後、他施設の循環器内科の先生方や本学附属病消化器肝臓内科の垣内雅彦助教授らと協力して、本測定の臨床的意義について研究を進め、心筋梗塞後の長期予後や慢性肝炎などでの病気の活動性の評価ができることを明らかにしました。今後、これらの病気の治療法の選択や効果判定に活用することが期待できます。さらに、骨関節症などいろいろな疾患の診断への応用を目指して研究を行っていきます。

「ニュークリンジェルスプレー」開発

医学部看護学科（大西和子教授）と附属病院看護部は、アゼックス社（四日市市）と共同で遺体処置剤「ニュークリンジェルスプレー」（体液漏れ防止剤）を開発しました。同製品の開発により遺体処置時の感染防止、作業にあたる看護師の労力軽減や処理時間の短縮、処理後の自然な遺体の顔面表情、またドライアイスが不要等で業界から高い評価を集めています。

